

自然災害を取り巻く環境の変化 —防災科学の果たす多様な役割—

日 時：令和4年10月22日（土）18時15分～19時40分

場 所：Zoomウェビナーによるオンライン開催

主 催：(一社) 防災学術連携体

■ 開催趣旨

自然災害を取り巻く環境が変化しています。時代とともに、災害の要因だけでなく、災害を受ける社会も急激に変わっています。地球温暖化、地形の改変、計画性のない都市のスプロール化、生物多様性の喪失、森林の荒廃など、多くの変化が顕れています。

近年、環境の変化もあり、自然災害と感染症との複合災害、線状降水帯の頻発化、熱海の盛土崩落による土石流、トンガの火山噴火と津波、日本の海底火山の噴火と軽石の漂流など、新たな多様なハザード（危機）と災害が出現しています。また、新たに検討されている日本海溝・千島海溝周辺型地震では、寒冷で平坦で人口密度の低い土地における津波・地震対策が課題になっています。防災に関わる学協会は出現した多様なハザードへの備えという重大な課題に直面しています。

自然災害を取り巻く環境が変化する中で、防災科学が果たすべき役割に焦点を当てて、多様な視点から広く意見交換をしたいと思います。

■ 参加申込

参加希望の方は次によりお申し込みください <https://ws.formzu.net/fgen/S55101142/>
本セッションのZoomウェビナーのURLは、申し込みされた方々にご連絡すると共に、10月20日頃に防災学術連携体のホームページにも掲載いたします。（防災学術連携体のホームページ：<https://janet-dr.com>）

関連シンポジウムのお知らせ：

ぼうさいこくたい2022のセッションにて、シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化－防災科学の果たす役割」が別途開催（10月22日16時30分より）されます。こちらにもぜひご参加ください。詳しくは、<https://janet-dr.com/> をご覧ください。

■ プログラム

司会 永野正行（防災学術連携体幹事）

山本佳世子（防災学術連携体幹事）

18:15-18:20 趣旨説明

米田雅子（防災学術連携体幹事、東京工業大学特任教授）

18:20-19:40 【講演】

(1) 熱海の盛土崩落の原因に関する地球科学的研究

日本古生物学会・日本第四紀学会 北村晃寿

(2) 地球温暖化対策の再生可能エネルギー開発に伴う土砂災害の増加にどう対処するか 日本応用地質学会 稲垣秀輝

(3) 阪神淡路大震災から四半世紀：活断層をめぐる状況

日本活断層学会 鈴木康弘

(4) 津波に対してレジリエントなまちづくりにおける堤防のあり方（仮） 日本地震工学会 有川太郎

(5) 場に刻まれた自然災害記録の空間科学的展開－地図化による人と災害の関わりの可視化 日本地図学会 黒木貴一

(6) 気象制御へむけた制御容易性・被害低減効果の定量化研究 水文・水資源学会 小棚峻司

(7) 防災につながる地理的知識の普及に向けて（仮）

日本地理学会 八反地剛

(8) 寒冷地・豪雪地帯における災害対応トレーニング

日本災害医学会 藤原弘之

19:40 閉会挨拶 渡岡良介（防災学術連携体副代表幹事）